

インド大乘仏教における瑜伽行唯識学派成立過程の研究 -無著の著作順序を手がかりに-

その他（別言語等）の研究課題名	On the Development of the Yogacara-Vijnana School in the Indian Mahayana Buddhism
研究代表者	早島 理
発行年	2008-03
URL	http://hdl.handle.net/10422/6409

研 究 成 果 報 告 書

インド大乘仏教における瑜伽行唯識学派

成立過程の研究

— 無著の著作順序を手がかりに —

(課題番号) 18520041

平成18年度～平成19年度科学研究費補助金

(基盤研究(C))研究成果報告書

平成20年3月

研究代表者 早島 理
滋賀医科大学 医学部 教授

研 究 成 果 報 告 書

インド大乘仏教における瑜伽行唯識学派

成立過程の研究

— 無著の著作順序を手がかりに —

(課題番号) 18520041

平成18年度～平成19年度科学研究費補助金

(基盤研究(C))研究成果報告書

平成20年3月

研究代表者 早島 理

滋賀医科大学 医学部 教授

滋賀医科大学附属図書館



2007015723

<はしがき>

無著の著作における瑜伽行思想の形成過程を、菩薩と声聞の視点から明らかにするのが本研究の目的である。

平成 15・16 年度科学研究費の成果である、無著造『顕揚聖教論』における菩薩と聖弟子声聞の修行階梯・内容の区別に基づく瑜伽行学派の成立研究をもとに、同じく無著の著作である『大乘阿毘達磨集論』（および『大乘阿毘達磨雜集論』）、『攝大乘論』における菩薩と聖弟子声聞の修行階梯・内容の区別による研究を行った。

その結果、次のような結論を得ることができた。

無著の思想を集大成した『攝大乘論』は次の三種の思想を継承しつつ、瑜伽行思想を完成させたと理解することができよう。

1) 阿含經典以来の伝統的教理は『瑜伽師地論』を経て無著造『顕揚聖教論』に伝承された。その『顕揚聖教論』に説かれる菩薩と聖弟子声聞の修行階梯・内容の区別と併置関係を『攝大乘論』は継承した。

2) 阿毘達磨仏教で成立した精緻な仏教教義は、大乘的変容を受けながら無著造『大乘阿毘達磨集論』に伝承された。この大乘的アビダルマ理論を『攝大乘論』は継承した。

3) 『解深密経』などの大乘經典に説かれ、『大乘莊嚴経論』に代表されるいわゆる弥勒論書において展開された、新たな瑜伽行思想の根幹である、阿頼耶識論・三性説・菩薩道の体系を、『攝大乘論』は継承した。

以上の研究成果は、2007 年 12 月 8-11 日中国広州 中山大学人文学院仏学センターで開催された「Academic Conference ‘International Symposium on Yogacara Buddhism: East-Asian Thought and Buddhist Tradition (唯識学思想と東アジア仏教伝統に関する国際学術会議)」において、“On a Buddha-kaya Theory in the Hsien-yang-sheng-lun by Asanga“ のテーマで発表された。その論文は公刊準備中である。

本研究の付随研究として、「瑜伽行唯識思想と遺伝子構造との関連研究」及び「仏教思想（瑜伽行唯識思想）と生命倫理の研究」に従事し、その成果を学会誌で発表するとともに、一般市民向講演会などで講演活動をおこなった。

[研究組織]

研究代表者 早島 理 (滋賀医科大学 医学部 教授)

[交付決定額 (配分額)] (金額単位 千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 (2006) 年度	2,100	0	2,100
平成 19 (2007) 年度	1,400	420	1,820
総計			3,920

[研究発表]

(1) 雑誌論文

・早島理 「生命倫理に関する知識・考え方」

種智院大学研究紀要 第 8 号 (15-29) 2007(平成 19 年), 3

・横尾美智代・早島理・佐藤浩

「ヒト・ゲノムに関するアンケート調査結果報告、その 2」

滋賀医科大学基礎学研究 No. 13(1-18) 2007(平成 19 年), 3

・横尾美智代・佐藤ひかり・福地範恵・早島理

報告 「記述表現からみた大学生の「生命倫理」に関する考え方」

生命倫理 (日本生命倫理学会) 17-1 (通巻 18 号) (110-119)、2007, 9

・横尾美智代・早島理

報告論文「医学、社会福祉、仏教学および栄養学を学ぶ学生の先端医療、生命倫理に関する知識、考え方 ―質問調査の結果より―」

医学哲学医学倫理 25 号 (121-127) 2007, 10

(2) 学会発表

・ Osamu HAYASHIMA

“On a Buddha-kaya Theory in the Hsien-yang-sheng-lun by Asanga“

Academic Conference ‘International Symposium on Yogacara Buddhism: East-Asian Thought and Buddhist Tradition’ 2007, December 9, Sun Yat-Sen University Guangzhou, CHINA

唯識学思想與東亞仏教伝統学術検討会、中国 広州 中山大学人文学院仏学研究中心
2007, December

(3) 図書

早島理、木村宣彰、太田清史（共著）自照社出版

『仏教思想の奔流 インドから中国・東南アジアへ』 2007, 3

「大乘仏教の人間観」（3-124）分担執筆

その他（講演会など）

・ 2006, 4, 22

近畿地区国際助産師の日の集い、基調講演「人と人の環、つながりのなかの私」

ピアザ淡海 滋賀県民文化センター

・ 2007, 2, 3

日本医師会・鹿児島県医師会生涯教育認定講座

鹿児島緩和ケア・ネットワーク特別講演 「病と生きるということ、病で死ぬということ」

鹿児島中央駅前ダイエー8階大ホール

この科学研究費による研究成果のうち、以下に、次の三論文を再掲する。

1. Osamu HAYASHIMA

“On a Buddha-kaya Theory in the Hsien-yang-sheng-lun by Asanga“

2. 早島 理

「大乘仏教の人間観」

3. 早島 理 他3名

「記述表現からみた大学生の「生命倫理」に関する考え方」